

平成 22 年度市民に対する自治基本条例の理解向上と市民参画の意識調査結果について

1 目的

自治基本条例第 27 条（参画への支援）に基づき、今後の審議会・懇談会等やワークショップ等の運営の改善に努めて、市民参画促進のための環境整備を図ること。本調査は毎年実施し、結果概要を公表する。

※自治基本条例第 27 条 市の執行機関は、市民がまちづくりの主体者として、参画しやすい環境整備に努めなければなりません。

2 実施方法

多摩市自治基本条例で定められている参画手法のうち、実際に参画した市民に対して、意識調査を実施した。

- (1) 審議会・懇談会等への参加終了後、アンケート用紙を配布
全市民委員 73 人中、23 人より回収。
- (2) ワークショップ等への参加終了後、アンケート用紙を配布
78 人より回収。

3 アンケート結果

(1) 審議会・懇談会、ワークショップともに共通して見られた意見は以下のとおり。

- ・自治基本条例が市民に浸透していない。
- ・参画後の結果をどのように反映するかが大切である。
- ・有効な手法であり、満足度は高い。
- ・市政について知ることができて良かった。
- ・市政に関心を持つようになった。



考えられる対応策

- ①自治基本条例の周知する機会を増やす（職員一人ひとりが広報の役割を果たせるように理解する）。
- ②参画結果がどのように反映されたか市民へ周知する（ホームページ、メールで個別通知する等）。
- ③市民が参画できる絶対数を増やす（開催回数、開催部署を増やす）。

(2) 審議会・懇談会等への参加者

- ・十分な議論ができなかった。
- ・専門的で難しい。
- ・発言がしにくい雰囲気があった。
- ・資料の配付時期が遅い。
- ・資料の量が多すぎる。
- ・出席者全員が決めなければならないことを共有し、効率的な議事進行を。
- ・職員に対する理解が深まった。



考えられる対応策

- ①事前資料の送付を早めに行う。
- ②資料の送付は必要最小限にする。
- ③議事の目的を共有し、議論の質を高める。
- ④委員の発言が偏らない工夫を行う（順番に発言を促す等）。

（3）ワークショップ等への参加者

- ・資料の送付が遅い。
- ・深みのある議論ができなかった。
- ・発表時間が短い。
- ・開催回数を増やす。
- ・発言しにくかった。
- ・多くの世代の意見が聞けたことが良かった。



考えられる対応策

- ①議論が深みのあるものになるような工夫が必要（事前資料送付。1グループの人数を少なくする等）。
- ②他のグループとの情報共有ができるように発表時間を長めにとる。
- ③知り合い同士のグループができないように工夫をする（無作為抽出による募集や席を抽選等）。

（4）その他の参画手法の提案

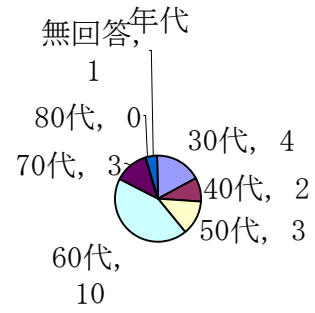
- ・プレ審議会、公開ヒアリングを実施してはどうかという意見がありました。そのような市民の主体性を重視し、審議会・懇談会等が主催して、市民参画手法（市民説明会、アンケート等）を実施する方法もあります。市民主体のまちづくりに向けて、さまざまな参画手法の支援を行えるような環境を整えることも求められています。

審議会・懇談会等への意識調査結果

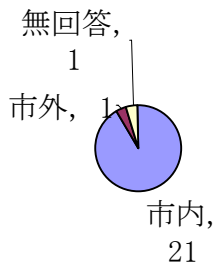
性別



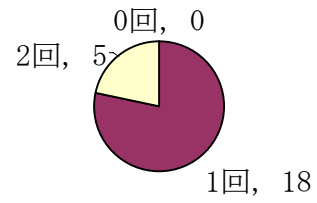
年代



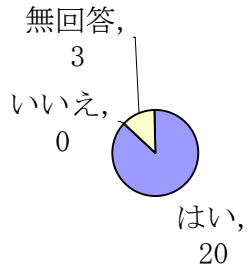
居住地



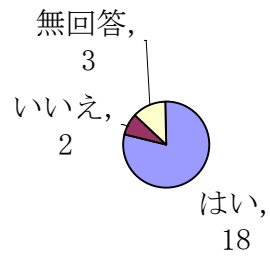
参加経験

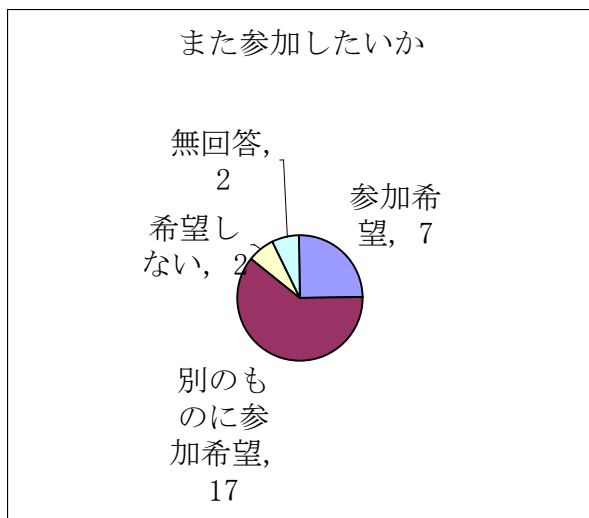
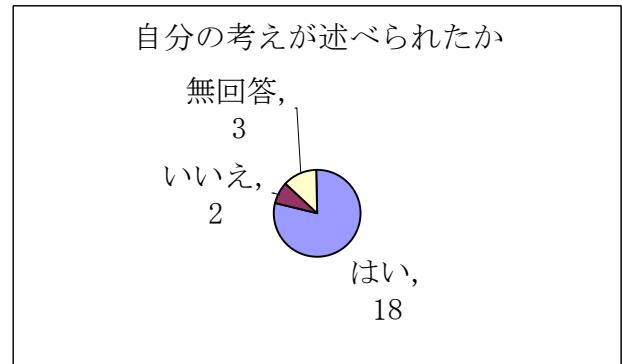
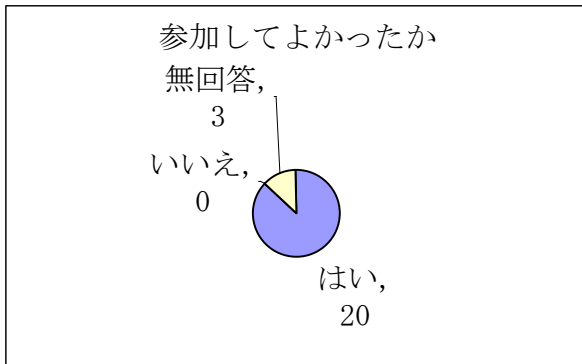


市民参画は進んでいるか



有効な手法か





結果の分析状況は以下のとおり

- ・参加者の性別は男性が6割となっている。
- ・50～80代が70%近くを占めている。
- ・7割以上の方が初参加と回答。
- ・回答者の全員が市民参画が進んでいると回答。
- ・回答者の全員が手法として有効であると回答。
- ・9割以上の回答者が自分の意見が十分に述べられたと回答。
- ・別の市民参画の機会に参加したいという委員が半分以上を占めています。

審議会・懇談会回答者(合計23人)

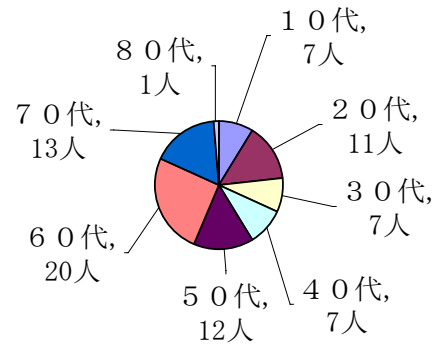
- ・環境審議会
- ・指定管理者候補者選定委員会
- ・多摩市地域保健福祉協議会
- ・図書館協議会
- ・都市計画審議会
- ・みどりの審議会
- ・総合計画審議会
- ・行政評価市民委員会
- ・学校給食センター運営委員会

ワークショップ等への意識調査結果

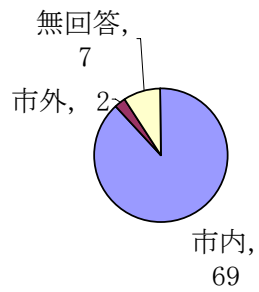
性別



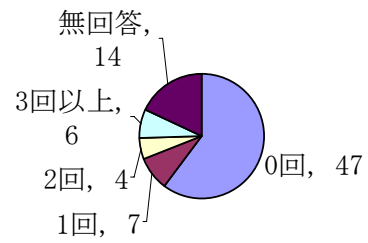
年代



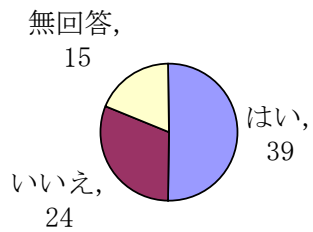
居住地



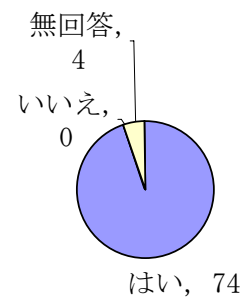
参加経験

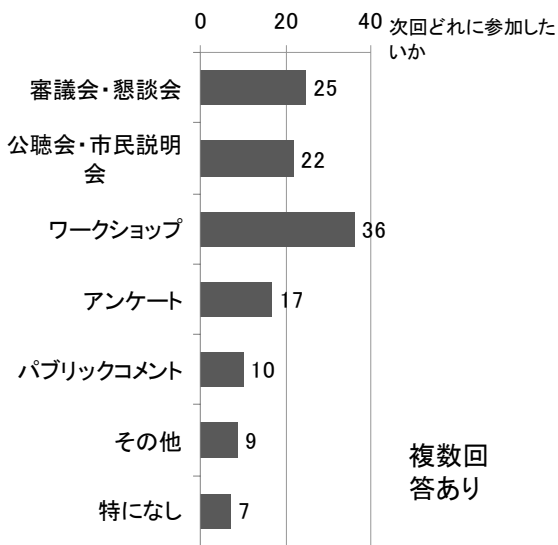
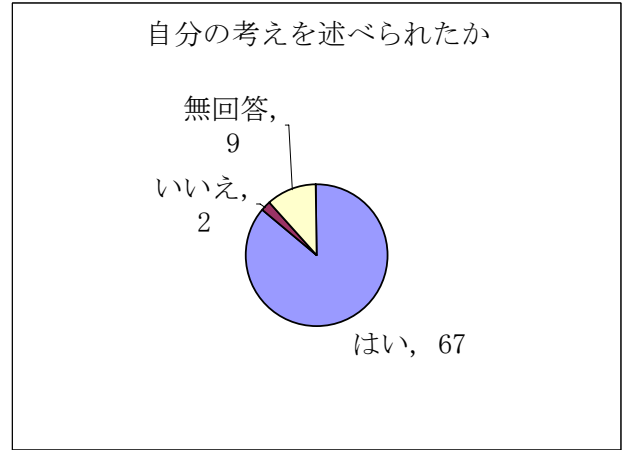
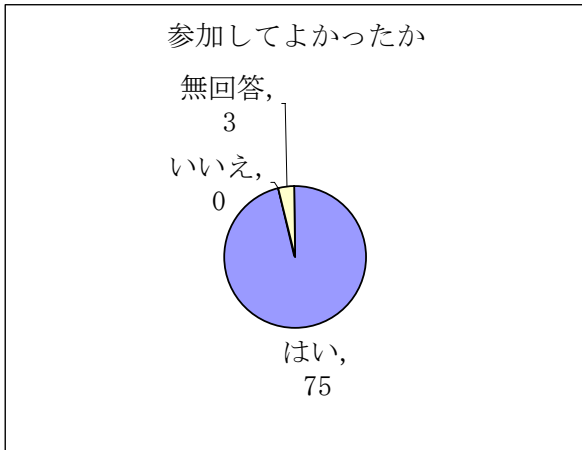


市民参画は進んでいるか



有効な手法か





アンケートの分析結果は以下のとおり

- ・参加者の性別は概ね半数ずつとなっている。
- ・回答者の半数以上が50～80歳となっている。
- ・半数以上の方が初参加と回答。
- ・回答者の半数以上が市民参画が進んでいると回答。
- ・回答者の全員が手法として有効であると回答。
- ・すべての回答者が参加してよかったと回答。
- ・9割以上の回答者が自分の意見を十分に述べられたと回答。

ワークショップ回答者（合計78人）

- ・第五次総合計画基本計画策定に係る市民ワークショップ
- ・(仮称)唐木田コミュニティセンター運営協議会設立準備会
- ・生涯学習推進計画策定市民ワークショップ